

## 令和7年12月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名			世帯数	人 口			対前月増減	
				総数	男	女	世帯数	人口
1	千 種		6,210	9,644	4,811	4,833	17	27
2	千 石		4,372	7,056	3,527	3,529	5	1
3	内 山		6,164	8,382	4,478	3,904	0	5
4	大 和		3,756	6,764	3,378	3,386	△ 16	△ 26
5	上 野		7,602	15,395	7,524	7,871	△ 2	19
6	高 見		7,773	13,601	6,504	7,097	△ 7	△ 7
7	春 岡		7,608	11,464	6,093	5,371	△ 23	△ 16
8	田 代		11,598	22,112	10,572	11,540	25	64
9	東 山		10,482	18,896	9,252	9,644	0	△ 1
10	見 付		4,651	8,402	4,222	4,180	△ 12	△ 7
11	星 ケ 丘		3,614	6,811	3,017	3,794	9	3
12	自 由 ケ 丘		3,546	6,989	3,167	3,822	△ 2	3
13	富 士 見 台		6,445	14,685	6,640	8,045	△ 12	△ 33
14	宮 根		3,872	7,852	3,610	4,242	△ 2	△ 9
15	千 代 田 橋		3,776	8,003	3,731	4,272	△ 5	△ 5
千 種 区 計			91,469	166,056	80,526	85,530	△ 25	18
R6. 12. 1			90,242	165,792	80,426	85,366	59	77
対 前 年 比			1227	264	100	164	△ 84	△ 59
名 古 屋 市			1,196,466	2,340,026	1,148,513	1,191,513	386	270
愛 知 県 ( R7. 11. 1 )			3,415,968	7,455,028	3,713,443	3,741,585	3,382	1,225

前月中の 増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	88	139	△ 51	741	672	69

【参考】	国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
	昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598(昭和50年2月1日)
	平成2年	156,478	平成22年	160,015	最小人口	146,727(平成11年4月1日)
	平成7年	148,847	平成27年	164,696		
	平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和5年国勢調査結果を基礎とした本市独自の推計値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

## 名古屋市民の平均寿命

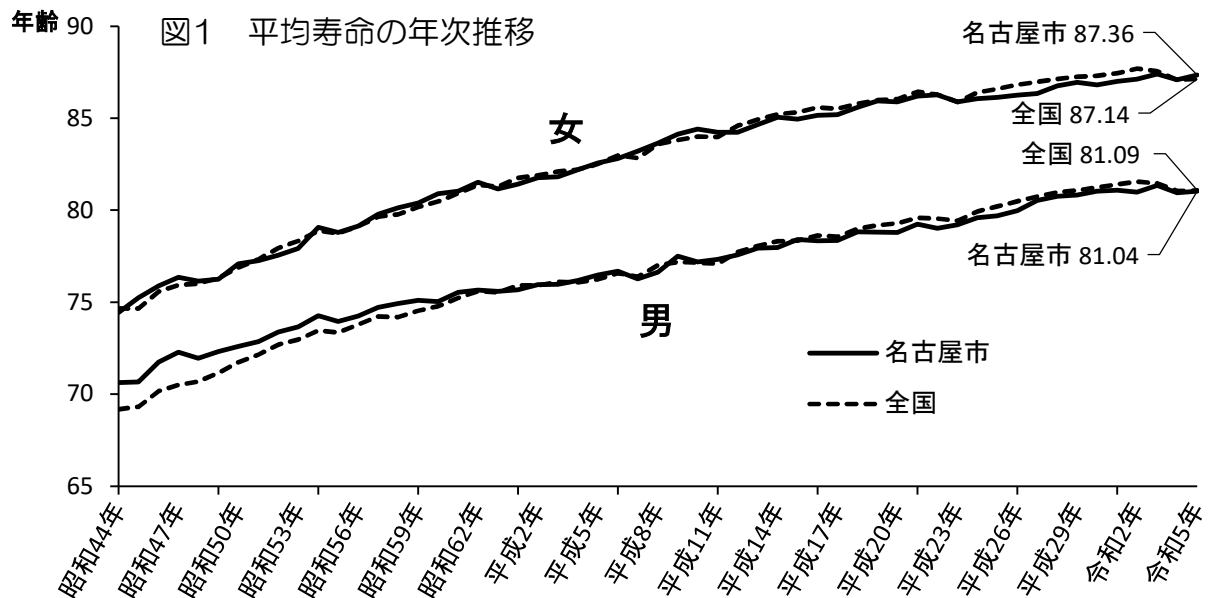
今回は、令和 7 年 2 月に公表された令和 5 年の名古屋市民の平均寿命を、全国平均と比較しながら紹介します。

平均寿命は、その年の死亡率が今後変わらないと仮定し、出生した人が平均して何年生きられるかを推計した値です。

令和5年の全国の平均寿命は、男性 81.09 年（前年比+0.04 年）、女性 87.14 年（前年比+0.05 年）で、男女差は 6.05 年となっています。

名古屋市の平均寿命は男性 81.04 年（前年比+0.10 年）、女性 87.36 年（前年比+0.26 年）で、男女差は 6.32 年となっています。

令和 5 年の名古屋市と全国の平均寿命を比較すると、男性は 0.05 年名古屋市が全国を下回り、女性は 0.22 年名古屋市が全国を上回っています。



### 【補足】

#### ① 平均余命と平均寿命

「平均余命」とは、ある年齢に達した人が、その年の死亡率が変わらないと仮定した場合に、平均してあと何年生きられるかを示します。「平均寿命」とは 0 歳における平均余命のことをいいます。

#### ② 平均余命の伸び

ある死因で亡くなる人がいなくなると、その人は本来の死亡年齢以降に別の死因で亡くなることになります。この結果、死亡時期が後ろにずれ、平均余命が伸びます。この伸びは、その死因によって失われていた平均余命とみなすことができ、各死因が平均余命に与える影響を測る指標となります。